



自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

10/30 (火) テーマ：『不登校・ニートを生み出す典型的な家庭とは』

33社34名出席 講師：千葉大和高等学院 校長 後藤 康雄 氏

年々増加する不登校・引きこもり・ニート問題とその現況



後藤氏は、不登校・引きこもり・ニート問題に対して、EQ「心の知能指数」の概念を用いて、今まで1千人以上の当事者解決を行ってきた。

「ここ10数年環境整備は進んでも、現況はほとんど解決に至っていません」という。不登校の相談は千葉県だけで昨年1万5千件、今年さらに増える見込みだ。対応する県のカウンセラーは20名弱、とても対応できない中、低年齢化も進んでいる。引きこもりは全国で推定100万人以上、ニートは年齢が上がるごとに改善も難しくなる。

昨年同様たくさんの方が後藤先生のお話に感動！朝食会でも様々な質問・感想・相談に、的確なアドバイスをしてくれました。

後藤氏は「不登校等を生み出す典型的な家庭は大別して2種類。ただ何れも親に問題があり、子の心が正しく育っていない」と指摘する。

不登校を生み出す典型的な家庭とは、次の2パターンだ

●親の未成熟が、子を問題行動に走らせるパターン

常識や正しい価値観のない未成熟な親に育てられると、子は問題行動(喫煙・飲酒・麻薬・暴力等)に走る。例えば14歳で子を産むのを許す親。ただ問題行動型の子は元気が良く自分なりに考えて成長する勢いがあるので、解決は早い。

対策としては、もう一度何が正しくて何が正しくないのかを授けて、方向性を正してあげれば良い。つまり、価値観の作り直しが必要だ。

●自分の価値観を全て子に押し付ける親が、子の心を蝕むパターン。

生活水準が標準より高い家庭、頭が良く、一見常識的な親に多いのが、このパターンだ。自分に成功体験があるので、自分の価値観を正しいと疑わず、「子供のため」と言いながら「自分の満足のため」に全てを押し付ける。しかし、子が親の言う通りにやっても時代が違うから通用しない。期待に応えようと無理をする。内向的になる。心が蝕まれているから、解決にもすごく時間がかかる。

対策は、じっくりゆっくり、本人が独自の価値観を形成するのを手伝うこと。子が自分の考えで行動して、その結果から正しいか間違いかを自分で学ぶトレーニングを繰り返すこと。それには親が、子育ての50%は社会に任せる気持ちで、50%子離れする必要がある。親は子の特性を見極めて、その環境だけ整えてあげれば良いのだ。

「経営者はもう一度考えてほしい。子にとって価値あるものか？」

後藤氏は、今の日本は大人中心の経済社会だという。日本人は便利にするのは得意だが、大切なものを残すのは下手だ。例えばTVゲームや24時間営業のコンビニは、子にとって本当に価値があるのか、と問いかける。

EQはコミュニケーション能力、対人間関係とも言えるが、「これを妨げるゲーム等は良くない。経営者はもう一度考えてほしい」と訴える。今や不登校・引きこもり・ニートは根深い問題で、国が長期計画で取り組まなければ、根本的解決は難しい。

最後に、「倫理も、全て正しいと真に受けるのではなく、それを自分なりに考えて応用できるようになってください」と、後藤氏ならではのアドバイスをくれた。

会員スピーチ☆(有)旭日学園 福原 学 氏

先週、入会承認証授与式があった福原氏。いつもは中野から来るため、始発でもMSに遅れてしまうが、今日は前泊をして最初から参加！最近、20代の男性と話す機会があって、その時に「若いのに、なんて相手を安心させる、素敵な笑顔で話すのだから」と感動したそうだ。自分は笑顔を作ろうとすると怪しくなってしまう、と冗談も交えながら、「自分もそんな笑顔を作りたい」と発表してくれた。

次回 第852回MS！ 11/6(火)6時～7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-7777)

テーマ：『障害者雇用と企業倫理』

講師： 職業倫理研究所 美浜区会員 野中 由彦 氏

できるできるやればできる！
明るく楽しくなければ倫理じゃない！
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく